

「がん終末期看護のやりがい感尺度(SMEEN37)」(福井ら, 2023)

<集計方法> 選択肢の得点を合算ください。因子ごとの得点は、下位の項目を合算ください。

| 領域 | 項目番号 | 項目数 |
|-----------------------|------------------------------------|-----|
| I. ともにいるケアの意味と役割の実感 | 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15 | 9 |
| II. さまざまな人生観に触れる学びと感動 | 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32 | 8 |
| III. 患者家族と医療チームの一体感 | 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24 | 9 |
| IV. 苦痛軽減へ貢献した実感 | 33, 34, 35, 36, 37 | 5 |
| V. その人をより理解するケアの追求 | 1, 2, 3, 4, 5, 6 | 6 |

<使用許諾について>

著者への使用許諾は不要です。以下の出典を引用元として記載のうえ、ご使用ください。

福井里美, 広瀬寛子, 米村法子, 坂元敦子, 新井敏子, 三浦里織 (2023) がん終末期看護に携わる看護師のやりがい感尺度の信頼性と妥当性の検討. 日本がん看護学会誌37(1), 1-14.

DOI:https://doi.org/10.18906/jjscn.37_60_fukui

<主な使用方法>

- ・がん終末期看護にたずさわる看護師のメンタルヘルスに関する研究の指標として
 - ・終末期ケア、緩和ケア研修会、現任教育の評価および振り返りの参考指標として
 - ・がんをはじめとする慢性疾患、チーム医療が求められる終末期ケアに携わるスタッフを対象とした研究として
- その他

<問い合わせ先>

福井里美 東京都立大学健康福祉学部看護学科 成人看護学領域

satomif@tmu.ac.jp

使用許諾は不要ですが、ご使用になられた際には、発表抄録、報告書など結果を共有いただけましたら幸いです

がん終末期看護のやりがい感尺度(SMEEN37)

終末期にある患者，家族への看護経験であなたが日頃感じていることは，以下の質問項目にどの程度あてはまりますか。

1.あてはまらない，2.あまりあてはまらない，3.どちらともいえない，4.ややあてはまる，5.あてはまる，の最も近いものに○をお付け下さい。設問のような経験がない場合は，「1.あてはまらない」に○をつけ，すべての項目にお答えください。

| | あては まら ない | や あ て は ま ら ない | ど ち ら と も い え ない | や あ て は ま る | あ て は ま る |
|--|-----------------|----------------------------------|---------------------------------------|----------------------------|-----------------------|
| 1 患者や家族の人生の振り返りをいっしょにしていると感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 ケアをしながら，その人，その人の人生に深くかかわっていると感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 言葉通りではなく，患者が本当に伝えたいことが何かを考えてケアをしていると感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 特に何かをしなくても，気に掛けること，そばにすることがケアであることを実感する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 患者，家族と自分とのかかわりを繰り返しふりかえって意味を見出す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 看護の無限の可能性を感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7 つらい状況でマイナス思考になっている患者が，かかわることで変わってくると嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8 「そばにただいていい」と患者に言ってもらえると嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9 患者の語りに寄り添い，「わかってもらえたような気がする」と言われたとき，存在意義を感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10 なかなか苦痛を軽減できない状況にある患者に「また来てね」と言われたとき，感動する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11 「あなたにあえてよかった」と患者に言ってもらえると嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12 「ここで最期を迎えられてよかった」と言われると嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13 患者の孤独が和らいでいると嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14 医師に話さないことを看護師に話してくれるとき，看護師冥利につきる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15 患者が看護師によって話題を変える様子に，自分の役割や存在価値を感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16 不仲だった家族に心を許していく過程に寄り添えたと感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17 患者と担当看護師の関係がギクシャクして自分が調整にかかわった患者が，担当看護師と信頼関係を築いていたとき嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18 治療にしがみついていた医師や看護師が，患者の求めに応じて穏やかに看取ったとき，スタッフとチームの成長を感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19 家族が看取れるように，死の準備教育を実践することにやりがいを感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20 その人が最期に求めている尊厳とは何かを話し合うことに，やりがいを感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21 患者が伝えなかった願いを家族に引き継いだとき，役割を果たしたように感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22 他の看護師といっしょに症状緩和の方法を考えたことが，その看護師のやりがいになったとき，嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23 家族ケアを実践したいという思いが満たされる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24 最後の数日に訪れる覚醒期のタイミングを判断して，家族とケアをできたときに達成感を感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 25 家族とエンゼルケア(死後の処置)を行うと，ともにその方を看取った連帯感を感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 26 人生の教訓を教えられる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 27 病むことの意味を患者が身を持って教えてくれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 28 生きること死ぬことの死生観を患者が身を持って教えてくれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 29 患者の実際の様子，語りから，その人の人生を学ばせてもらう | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 30 落ち込んだり，苦しんでも生きていく，人間の強さをすばらしいと感じる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 31 いろいろな人や家族の生き方を知って，いろいろな人がいていいのだと実感する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 32 人の最期の命の灯火の強さや激しさを感じ，感動する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 33 かかわったことで苦痛症状が軽減し，食事や会話ができるようになったことが嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 34 知識と技術を総動員して，患者の痛みのない時間が持てたことが嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 35 働きかけによって，患者と家族が貴重な時間を共有できたことが嬉しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 36 苦しまずに亡くなられたときによかったと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 37 家族が悲しみながらも笑顔がみられたときに安堵する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |